

ラツビッチ展に寄せて

クロアチア留学が決まっていた1987年の夏、偶然、伊勢丹美術館で開催されていた『原田泰治とユーゴの仲間たち』展で、ラツコビッチ氏の作品に出会いました。

同年9月、当時まだ旧ユーゴスラビアだったクロアチアに渡りました。ザグレブ美術大学在学中に、同国のナイーブ派の作品とじかに触れ、多くの作家達との交流の機会を得ました。中でもラツコビッチ氏のアトリエにはよく通い、激動の時代を生き抜いてきた氏の人柄に触れることができました。

1992年内戦のためやむなく帰国をすることになりましたが、その時ラツコビッチ氏から『ひとりでも多くの日本人に見せてほしい』と作品を託されました。

帰国後は私事に追われうちに時間が過ぎてしまいましたが、氏との約束を果たさなくてはという思いから、1994年長岡市で第1回作品展を開きました。さらに、函館市、東京、十日町市と開催する先々で、ラツコビッチ作品に対し私と同じ思いを寄せる友人ができました。その人たちに支えられて、展覧会の回を重ねることができました。

もうラツコビッチ氏はいませんが、クロアチアでの5年間の思い出は作品を通していつまでも色あせることはありません。今回、渡部典さん・ビア&カフェベルクの全面的な支援と協力のもと、ラツコビッチ展を開催できますことをとても幸せに思います。 2010年8月

山崎富美子 (ラツコビッチ・アート・ジャパン)



ピエタ クロアチア独立のための内戦で亡くなった死者を悼む慰霊碑